
十兵衛さん。

たけせい つるぎ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

十兵衛さん。

【Nコード】

N4870I

【作者名】

たけせい つるぎ

【あらすじ】

”織田信長”かららしきく東国派兵く指令をつけた武将が実在した。

く本能寺の変く直前…家康の東国で、元親の四国で…なにが起ころうとしていた？

徳川幕府は、なぜ100年チヨイも”光秀”情報を操った？そして”三淵家の者”とは…？

ひよんな事から、ミヨくな歴史番組に関わるハメになった男・オオタ。

”敵”は、享年・上は135歳、下は（自粛）の戦国武将＜明智光秀＞。

そして、恐怖の大正フジヨシ＜大村ユウコ＞…！！

”大村”出演で念のため、「ボーイズ」指定が必要だった？脱力歴史パロディ小説。

戦え、オオタ…！公共放送歴ドラプロデューサーの名にかけて…

！！

グラン・パ・ミステリー

”大村ユウコ”といふ、女子高生がおる。

最近人気の「ケータイ歴史小説家」とかー。

情報源は、中学2年の、うちのひとり娘だ。

「歴女」てな言葉も定着した昨今の日本。我がJHKの大河ドラマでも、主役をジャーズ他若手美形俳優を起用し、視聴率UPしちよるが…

どうも代わり映えしませんねえ、と、うちの上司がこぼしとった。

俺は、このギョーカイに30年近くおるが、”大河”でなく、単発の、局つき歴ドラプロデューサーだ。で、

「ちよつと面白い娘が話題でして〜！」と、局のおえらいさんに余計なネタ振りしてもーた。

俺が”大村ユウコ”の小説を見たんは、ものの3分だ。

<真田幸村><長宗我部元親><チエーザレ・ボルジア><田中角栄>…

”女子高生・大村”のケータイサイトにや、人名のみ並んどった。

よく聞く歴女好みの”戦国武将”とかぎらんかったが…

今、資料集めとる<長宗我部>を開いた。

(今度、上役にドラマ企画を出すんじゃ〜っ！！)

「俺の一郎まで連れていきやがって…そう死の床まで彼は悔しかった。彼にとつて一郎は亡き息子か？否……」

…ん？こりゃ<角栄>さん…??(誰や一郎って!?)

…慌てて老眼鏡かけ、再度探した…うむ女学生にしちゃシブい文やが妥当か？

大して考えず、俺はニガテなケータイで一時間かけ、”大村ユウコ”にメールを打った。

まず一度…コンセプトワークとしての原案協力を…
JHKの<権威>そのもの。”大河”ドラマ作成への協力要請である。

8月上旬―東京都渋谷区の、広々とした敷地に建つ、我がJHKビルの上層階―

そのの一室で、会議はひらかれた。

若い女が……テーブル上座に陣取る……

周囲は5名程、JHKのディレクター他、歴ドラの中堅関係者……

先に2度程、”彼女”と対峙した俺は…血の気が引いとった……。

「すげ〜っスねえ…オオタさん……」

背中丸め耳元で唸るは、後輩のオゼ。35歳、身長179cmのヒョロ男だ。

「ーだろ？」俺も未だに慣れん…。自称”女子高生だたく大村ユ〜コ>にだ…!!

身長150cm位か。小柄で、小さい頭部は日本人形風真黒のオカッパ。

大きめの眼にキッチリメイクで、年の頃も判別でけん。深紅の口紅に…

悪くねえルックスやが、そりは現在、”平成の御代”てな事を考えねばや…っ!!

以前…原宿とかで見たぜ…大正期の女学生!?

蛍光ピンクの夏着物は、巨大白ユリ柄、エメラルドグリーンの帯にや蛍/夏草が散る。

帯締・帯揚げは白やが、半襟がコバルト色、足袋もコバルトの柄足袋や…

これに白木のゲタで、局内をカラコロ来たんか…。

俺は、”会議ン時だけはフツの服で来いっ!!”と怒ったが…逆効果やったか…

大村、マスカラつけ過ぎの眼で俺をニラんでくる…くそっ！！

怒りと貧血に震える手で、俺は”大村原案”小冊子を皆に配る…更にぐらつく。

「読んでくれ…」

俺は、隣のおぜに丸投げした。自分じゃ読みとうなかった…

おぜ、茶のポロシャツ姿でヒョロンと立ち、頭かき、力無く読みあげ始めた―

「…数えて17歳の、遅い元服をすませた竹千代―祖父と同じ幼名だった―徳川家光は、筆を進めていた。

側に、彼の乳母・春日局が添う。

家光は、くねと首を傾げ、信頼を寄せる春日に語り始めた。

「わたくしは―戦乱の代、誰よりも強くあられたおじい様―家康様が、理想の御方です。家康公のようにになりたい、と思う以上に…おじい様のような素晴らしい殿方と、共に世を歩んで参りたいのです…」

「…それは隔世遺伝でございましょう…家光様…」

春日は、老いの見え始めた両眼もはらはら、「まだ齡17で…」と、たもとで顔を覆ってしまった。

「家光様は―その新しい”御名”になかに、亡き家康様の想いを継いでおられます。御存命の頃は、その御方を存じているこの福にも、思い出話をお聞かせ下さいました。多く女性を愛されましたが、その御心は…」

春日は…言葉を切った。若い家光が、じつと春日を見る。

「家康様は―源氏の守護であつた下野の”日光”にて、永遠に待たれる事を望まれたのです。その御方がため、恒久の平和を守る為、御自身が<神>となり、この国を護り続ける事を誓われました。その想いの強さ深さがどれ程のものか…家光様も大人になられましたら、お解りになりましょう…」

20年／江戸城)

(by大村 家光&春日局 16

窓の外は夏の陽光キラキラ…都心一望可能な絶景の会議室の空気が…どろ〜んとしとる…

「隔世遺伝…」

ディレクター某がつぶやいた後、とがめるような咳払いが続いた。読んでたオゼも、死人みてーなツラだ。

たまらず俺は、大村ユ〜コに(敬語で)クレームつけた。

「大村さん…私は確か<大河ドラマ・徳川家光>の原案を、とお願いしましたよねっ!?!」

大村、返事ナシ。

やむなくオゼが、冊子内容をダイジェストで説明し始めた…

「この後〜、”日ノ本”なる、異次元の宇宙(?)で話は進みます〜。天草四郎率いる、別空間の”天使軍団”との宇宙戦争も勃発します…え〜、で、將軍・家光は〜、パワード…ロボットか?を出撃させようとなります。これが…」

オゼ、一度、深呼吸しとる。

「死者の魂を移植した…?なんつ〜の?え〜、<神君・家康>がリプロダクトしたロボットで…名を”惟任日向守?”……」

誰かがカップを倒し…コーヒーの暗雲がテーブルに広がってゆく…ガタン、と椅子が鳴った。

「ヘンですか〜っ?」

大村ユ〜コ、しれっと、どピンクの中振袖ゆらして前髪梳いてやがる。

も…モノホンの”惟任”のムスメは、超有名クリスチャンや…!!本人(?)が出撃するもんか〜イっ!!…いやその前に…

「ロボット…」武者鎧”ですネ。この”惟任日向守?”は、総長15m、白と水色で彩色し、白ヌキで土岐桔梗紋がはいります。彼の

肖像画みたいに、少し赤も使ってください。」

…全く、大村発言が頭に入らんっ！

「武器は、レーザーソードと火縄銃型ビームライフル(???)。あ、メカの右肩に漢字で”惟任”と入れるよう、メカデザインさんにお問い合わせして下さい」

「…安原一式かよ…」とオゼ。(俺、イミわからん…)

大村よ…メカデザインが、かつて”大河”に存在したか…?

そりは<実写版・鉄人28号>か?<米国版トランスフォーマー>? それとも大村:おめーのオカツパ頭ン中じゃ、アニメーションにでもバケとんのか…??

いや…そらまだええ。一番の問題は…こりゃ主役は”家光”ぢやねえ。おそらく…

「…あの…大村さん…この原案の主人公は…」

同業者のカワズミ氏が上品に…おびえつつ聞いた。会議出席者の視線が一斉に、大村ユッコを凝視した。

大村、キョトンとしとる。俺の推測じゃ20代の顔で全員みまわし、え、そりゃ…と続ける。

「…明智光秀ちゃんですよ」

やっぱし…会議室の全員、テーブルに突っ伏した。

なぜに主役をカツテに変える。しかも「光秀」っ!?

会議じゃこの話、まだ「冗談」やった。

JHKでも、ホンマに新機軸は欲しいのだ。(せつかく”歴史ブーム”なんやし…)

俺の誤算は、某元総理のアニメ好きが、思わぬ形でこの日ノ本に残っておる事に気づかんかった事や…

俺は自宅で、本来の仕事”単発歴ドラ企画”を練っておった。

戦国時代の、四国統一の英雄<長宗我部元親>だ。

急に、昼間の、大村ユッコとの攻防戦を思い出し…ゲンナリした。

「家光でなく、光秀チャンでやらせろ〜!!」と怒鳴っておった…
(ナゼに”チャン”付けや??)
書けないなら電話でも断りやええやるに!”家光じゃワタシ書けません〜!!”で済むぞフツー…

<明智光秀>かーはあ…JHKじゃ、むつかし〜戦国武将や…。

戦国時代の三大巨頭(”オヤジ”サンのアイドル)といや…

<織田信長><豊臣秀吉><徳川家康>の3名だ。

<安土><桃山><江戸>それぞれの時代の象徴だ。その名をサカナに酒飲む御仁もおられよう。

なかでも、ダークヒーロー部分と悲劇性を併せ持つ<信長>は、現代ではダントツ人気の戦国武将だ。

その主君・信長を切腹させた家臣<光秀>は、長い歴史上、マイナスイメージの強い男やった。

しかも、天下を取った3日後(正確にや11〜13日)、次の天下人<秀吉>に滅ぼされた”敗者”でもある。

(一)の実例”謀反人・逆賊・三日天下・クーデター主犯…なかなかすげ〜ゾ。

ただ…<光秀>に同情的な見方も昔からあった。

真偽不明の”いぢめつこ信長”説だ。

そりを抜いても、「横暴な上司(”信長”)にプツンし、「腹黒な同僚(”秀吉”)に蹴落とされた<光秀>は、世で戦う男、サラリーマンの心の友と言えなくもねえ。

実際、近年、光秀を”有能だ”と評価するムキもあるらしい。

だがJHKで<光秀>主役は…民放で”光秀主役ドラマ”があった際、局内でも話題になった程や。

第一、”本能寺の変”の動機が、400年以上たつてもま〜だホツトに揉めとんに、公共放送が勝手は…ん??

ナゼまた、あの変女<大村コ〜コ>は、<光秀チャン>を主役にゴリ押ししてくんのやあ?

……イヤな予感がした……。

バケる光秀

翌日の日曜日。

中2のムスメに嫌がられつつ、俺は自宅のPC前に陣取っておった。
「講師代よこせ〜っ!〜」と騒がれる。

うつせ〜よっ!そもそもお前が「大村ユ〜コ」読者なんかやから、
父親がこんなメに遭つとるんやぞ!〜!

「え〜と〜」戦国”と名のつくゲーム関連か〜」

オセ情報や。(多分、大村はこりの影響大やるとの推理や) …
ぶつぶつと検索開始。

考えず、”光秀”でやったら100万件超えた…ぎゃ〜ッ!〜!(ア
ホヤ) …絞り込む。

「こつちのが早いヨ」とムスメ。カラフルな雑誌を押し付けてくる。
なに。アニメ雑誌?ゲーム雑誌…??

開いたページに「女」がいた…ちゃうか?ビジュアルバンド風あんな
ちゃんのく絵>か。

なが〜い白髪、紫の口紅、トゲ生えたロングドレスの”女”いて、
なんやこら!?

(え、ちゃう?ノースリーブにハカマ!?んなハイファッション、
おっちゃんに解るかあ〜ッ!〜)

PC画面にや、またロン毛(こつちは黒髪)の美青年…っ〜か
女御>に見える細身の武将が……白い翼ヒラヒラと……

こ、これは以前、民放CMで観た覚えが…!!
その画像横、信じらんねえ文字を見た…ムスメの言葉とシンクロだ。

「〜これがく明智光秀>じゃないの?」

パソコン、と、思わずムスメを雑誌ではたいてしもうた。

「な、ナニすんのよっ!〜!ヒトがせつかく教えてやってんのに〜!
!〜」

きい〜!〜と、ムスメの足蹴り食らいつつ、俺は必死でPC操作を

…(ぜえぜえ)

いや…俺は元々、ゲーム類は一切やらへんから、ここらは俺の知識不足なんやろ…しかし、えれれれ改竄や…!!

明智光秀、確か信長よか年上…50代だか60代だか…なして”口ン毛美女”になる!?

別のネタもピックアップする…直視に耐えらんねえので。

・ 出生候補地にモテモテや。(岐阜県土岐市/同・可児市瀬田/同・恵那郡明智町/同・山県市〓旧・美山町)

・ 秀吉系「惟任退治記」や、後年の「太閤記」シリーズ等、書籍やらで、<光秀><信長>とも、ずいぶんひで〜モンも含む事実無根ネタが世間に根付いちよる。(パワハラ説、朝倉さん家臣説・斎藤道三関係者説ほか)

・ 京都・丹波は福知山市、亀岡市(旧・龜山)に、有名な坂本市…ヤツが統治した地域じゃ、いまだ”明智光秀公”と敬われたり、プラスメージで扱われとる。

今も大々的に”祭り”の主役をはる光秀。観光のメダマや。

特に：ちんまりしとるが、福井県東大味の”明智神社”。痛ましくも暖かい〜あけつつあま〜伝説の残る地域や。

・ 日光…ああ、栃木の日光ナ。”徳川家康公”の祀られとる東照宮…あ?ここで”明智光秀ツアー”があんのか?なんでじゃ!!

それで、あのオームラがみよ〜なコト書いたん?…天海和尚ねえ〜。俺、”光秀天海伝説”はよ〜知らんワ。

・ すっげ〜”愛妻家”で有名。伝説でしかね〜やるが、正室・熙子キコさん以外は「側室さんいなかった」説まである。

・ 娘のひとり・細川ガラシャ(〓明智玉ノ玉子/球子)。

親のムホンが子に報い〜悲劇話が海外まで波及…大変である。

ま〜だ色々ありやするが…

こん中に”光秀が美女にバケる?”素は、特に見つからへんかった。

ムリ言やあ、娘ガラシヤが”チヨク美人”で有名やが…？

ガラシヤ肖像画と、オヤジ光秀（唯一の）肖像画がけっこう似とる
せいか…！？（妻・ヒロコさんも美人らしいが…??）

天正10年6月17日・坂本城集団自決の後を、宣教師ルイス・
フロイスが記しとるが…

光秀のふたりの息子（正室の子／光慶・安古丸）の遺体を”ヨーロッパの王子のよう”と評しとるとか。仏教徒・光秀自身は酷評しとったフロイスが、だ。

状況証拠で浮かび上がるは”美男美女一族”疑惑か？

しかも＜本能寺の変の加害者＞と言われるものの、その実態自体も
疑惑だらけの、ナゾの悲劇的一族だ。

で…オペラに歌舞伎に小説に…

400年以上前の＜明智家の人々＞、まるでギリシヤ神話状態つつ
くか、”キャラ”扱いである。

ひと休みして検索再開。

ムスメもブツ飛んだ画像がヒットした…宝塚だ。”ささら笹舟”て
な劇だ。

…”ツカ”でもやつとつたか…

月代もなく、オスカル・アンドレ張りのフルメイクも美々しい「光
秀」だ。

明智光秀・50代戦国武将…一体、近年、ヤツの身にナニが起きて
おるんやっ！？

海外のHPをヒットさせたんはムスメや。「光秀専門HP」らし
い。漢字なら”美形”と書いておるのは判別でける。

画像は、平安時代の”女御”にしかみえん美青年の図…が「光秀」
か！？これぢや、木原敏江氏のマンガのキャラじゃっ！！

も、「森蘭丸」と間違われてねっか光秀！？

（明智氏≡土岐一族≡清和源氏系、てののせっか??）

頭ン中が、TV番組終了後の”ザーツ”てな砂嵐音につつまれとる。

「…オヤジ、大丈夫か…？」

ムスメ、困った顔で、俺のデコにコーラのペットボトルを押し付けてきた。

娘よ、有難う…俺は…もう駄目かもしれん…なんや足下がグラつくよ…だ。

多分…日本の男の大半は、んなイメージ持たなかるう。

<光秀>は、ン百年も”謀反人”として扱われてきた。

例えば…可愛いクチでも、関東ローカルCM「東京 スノガスパツチヨ」（妻夫木クンのヤツやな）の、信長光秀のイメージだ

…？…いや違う…違うケースもあつた…あれは！！…一瞬、脳内が発光した…！！

江戸川乱歩”明智小五郎”生みの親や…！

あの御耽美ミステリー大家が、”明智光秀の名”を、その随一のヒーローに授けたのや…これは何故や…？

俺ら凡人男にやわからん”何か”を、かの小説家は、”光秀”に嗅ぎつけた、とでも？

…一体、そりはナンなんや…？

翌日…自分のデスクに、ヒョロ男・オゼがよって来たので捕まえた。

前日の検索結果の、要領得ん報告をした後…質問してみた。

オゼ、相変わらずダルそ…な様子だ。面倒そうに、チノパンに手エ突っ込んだまま答えてきた。

「ま…、今の”歴史ブーム”の中心は…、オヤジさんらと、若い”歴女”…っスか？ライカユ…ザ…VSロモ…っすヨ。話合わね…ってオオタさん！」

そ…かね…（また例えがワカランが…）

”歴女”なお嬢さん方の、歴ドラ視聴率UP貢献は有難エが…話つ

くりづれ〜!!

「だがな…ナゼに光秀はミヨ〜な取扱いなんや？秀吉も家康も…
信長はあんのか、一応」

美少年の小姓・森乱（蘭丸）のカンケイで。

あ、やべっ！”女信長”なる小説があつた…ありや信長（性別/女）
が色々と〜ぎや〜ツ!!

いや後日…”モノホンの信長が女装しとつた”情報が出たが…ま、
驚くんは後日である。

ヒトが、顔を白く青くしとんのを、オゼ、奇妙なポケモンでも見る
メで呆れとる。寝癖だらけのボサ頭かいてやがる。

う〜ん、と伸びをすオゼ。ダボダボの服が、ビール腹の俺にや羨ま
しい。

「ヘンにカツコ良さげっスよね〜？」惟任日向守”とか〜”
ま、ヒデオシよかは…

「あ、そ〜いや”美輪明宏”さんと名前似てね〜スカ？オオタさん
！それでナヨツとした（無礼）美形イメ〜ジが…ほら”あけちみ
つひで”って…」

「あけみひ”しか合つてねえゾ！！

「しかも”美輪さん”！？」

確かに、お若い頃の御写真、美女で通るほどの御姿やが…（江戸川
大先生の件を思い出し、更にドツポにはまる）

明智光秀の<肖像画>を思い浮かべちまつた…！あの娘似の…！
（？）

歴史の相関図ンなかで必ず浮く<絵>を！！

400年以上経つて、顔料ハゲたり変色したせいか、<赤いおべべ
のキラキラしたお兄様>しとるゾ！！

おメメまで、星がまたたいて見える始末やし、ヒゲも生やしてねエ
！！（そ〜いや、西教寺の木座像にも無かつたな？）

肖像画は、若くしか見えんが、ありや光秀のムスコ（前妻さんの
子？―推定享年13歳・光慶クンらの訳ねえ）が描かせたつて説も

ある。

若い時のワケねーよナ？金もねーやるし…

こ、これが「若女形化」の遠因か…！！？

こ、怖い…俺は”光秀”つつー男が怖エっ！！

「オオタさん…どくし…真っ青っスよ？」

オゼが、俺の異変に気づいたらしい…マジで寒気が襲ってきやがった。

「オゼよ、ぜったい阻止しような…＜大村ユウコ＞原作での、明智光秀の大河ドラマ化を…！」

いや何がこええって…

どう考えても、あの変女＜大村ユウコ＞、マトモな原作小説書きたあ思えんかった。

後日知ったが、ヤツは、そのスジじゃ有名な同人誌作家（〜とは？）やそうな。特に「森蘭丸」ファンだという。

なのにナゼ、”蘭丸死亡原因”の＜光秀チャン＞を扱いたがる！？…まったく解らん…！！

「…私も、おじい様のように強くありたいのです！このようにひ弱な私でも、戦乱の世を勝ち抜き、この日ノ本を手中に納めたほどの漢に…！」

「御血は争えぬものですわね…家光様…」

春日局は、老いの見え始めた頬を袖で隠し、「齢17で…」と、涙を流した。

「…家光様は、その新しい御名のなかに、亡き家康様の思いを継いでおられます。御存命の頃は、この福にも、理想たる平和国家へのおこころざしをお聞かせ下さいました。そのお考えの師たる…いえ」

家光は、じつと、春日局の眼を見た。

「家康様は、下野の”日光”にて永遠に、日ノ本を守護される事を望まれたのです。その思いの強さ深さが…」

「ホレっ」

俺は、来局した大村ユッコに、冊子をほん投げた。

赤字いれまくりの、先日の……ジゴクの会議での＜配布物＞だ。

「あゝッッ！！」

スツゲゝ顔芸で雄叫びあげた大村。「あたしの芸術があゝッ！！」

て、どこがやゝっ!？

俺も負けじと叫んでもーた。

「これが、JHKとして”最低レベル”の文章や！あんなン通せつか！おぼえとけゝ！！」

”家紋”が有名なのは、＜明智光秀＞だけじゃねえ。

＜初代將軍・家康＞＜黃門様＞の代名詞・徳川家の”三葉葵”とて

……。んだが、大抵のヒトは、この家紋で”お花のアオイ”までは思い浮かべまい。

歌舞伎でも出まくる……可憐な五弁花。土岐明智氏の象徴（諸説あるとは聞くが）。

国内で＜桔梗紋〓お花のキキョウ〓光秀〓土岐氏＞の図式が通るのだ。

ルックス以前に、全国区で通用する”花が象徴になる男”

……それだけでも、フツーじゃねえぞ、＜明智光秀＞……。

バケた藤孝〓細川幽斎

九州・熊本城：

国内屈指の名城は、豊臣秀吉の忠臣・加藤清正が築城した事でも名高い。

清正は：太閤・秀吉の遺児・秀頼ら豊臣家と、”時の権力者”徳川家康の和睦をはかったがうまくゆかなかった。そして清正死後：この熊本城は、建設者一族の手から離れていった。

<徳川>の命で12代目・熊本城城主となつたんが1気苦勞が板についた男。

清和天皇から続く名門・細川家3代目〓”細川忠利”やった。

1637年、”島原の乱”で、キリシタン弾圧に加わつた、大名・忠利。

この時、歳の近い：かの劍豪・宮本武蔵を細川家に迎え1熊本城内に屋敷を与えた。

自身の死後も、細川家で、武蔵を最期まで面倒見続けたそうだ。

忠利自身は1キリスト教に関わつてないとも、洗礼を受けていた、とも言われておる。

亡き彼の母が、幼く病弱だった忠利ともども入信した・説もあるのだ。

こりは：長年の名門・細川の薫陶のおかげなのか。それとも、人生のかたちも”隔世遺伝”はあるんか：？

細川忠利：生年は「天正14年」（1586年）、”本能寺の変”の4年後である。

幼名は”光千代”1細川忠興・ガラシャ（明智玉）の三男。

1つまり、”明智光秀のマゴ”だ。

1600年”関ヶ原”の頃”母が自害状態（殺害？）のあとー
イエヤスの江戸城で人質しとった、10代少年の忠利。その後、熊
本で大金持ちになる。

2代目將軍予定者・秀忠に気にいられたから。とかゆゝとるが…そ
の秀忠（20歳前後か）、まさにこの頃、”関ヶ原にチコクして”
オヤジ家康に完ムシされてなかったっけ？（通説は）

この当時、バリツバリに実権握っておったんは、”誰”や？

将来の”東照大権現サマ”が無関係なら、多分、こんなん実現せん
かったハズや。

”言いだしつぺ”は誰やる…？

・細川忠利（3代目）”39万石 54万石に増。 「熊本城」に
移封。

・細川忠興（2代目）”39万石をムスコに譲り、自身は8万石
「中津城」に。（特例らしい…）

・細川幽斎（”藤孝/初代）”本人は”固辞した”ゆーが…

田辺籠城のあと、6千石の隠居領もろー

た。

諸説あるが当時、だいたい1万石”2億円くらい、と俺は覚えと
る。

単純計算でも…54万石”108億円…！！

忠利、ヒトジチやっただけで…！！

（場所が駿府といえ、家康マゴ・お江与溺愛の”忠長”が55万石
ですぜ…！！）

忠利の兄（次男）・秋興が怒って、次のヒトジチ任務をほん投げ
豊臣方に逃げた。なんて話も…うなずける。

父・忠興に切腹させられた…といわれる次男・興秋。

ただ、「陰で逃がした」説もあるんやな。

明治時代（つまり徳川幕府消滅後）に、細川家自ら、御先祖様の兄
弟を追跡調査したそゝな。

「え？ダラダラしとってイミわかんね？じゃ、こゝ書くか。身もフタもねーゾ。」

「2代目熊本城城主」明智さんハーフ！！」
な、手短かやし簡単やる？

実は「細川忠利」以外にも、チマチマ”徳川方”に混じった”明智サン関係者”がおるのだ。

つついてくと結構、＜明智光秀重臣・斎藤利三が娘”春日局”が異常人事とは…

”世間”はともかく、イエヤス周辺じゃ、異常でもナンでもなかった…かもしれへんゾ。

春日局（斎藤福）が、実務に優れゝの、公家の血を持ちゝの、教養ありゝの。とか言うてもな。徳川にへーこらする名家のオナゴん中にも、匹敵する人材はいたと思うしヨ。わざわざ遠ゝい長宗我部の地元＜四国＞から採用せんでも…。

細川家では、”忠利だけ”残ったんは、父・忠興が”徳川を怖がって”兄ふたりを排除した、てな説もある。

実際に…関ヶ原で戦った父&田辺でひきこもり？の祖父、よか優遇された少年・忠利。

単純に「おーおーめんこいのー（？）」だけじゃ、108億円なんて大金、10代半ばの少年にやらんやる。

家康、自分のマゴやないんやから。”命の恩人のマゴ”とかゆるなラまだしもヨ。

JHK内、ドラマ撮影現場で、友人の放送作家に相談受けておった。と、スタジオ入口に場違いな黄金の地蔵…？？

…大村ユゝコが来たゝツ！！なんで来んねん！？…ヒトの聖域に土足（？）で上がるんじゃねえ！！

「おい…あいつが例のヤツか…！？」と、友人までおびえとる。

大村の制服「中振袖」。今日は全面、山吹色に光る綸子地の着物で、黒い梅花が不規則にちる。帯は淡灰色地に、タンポポ刺繍がデカデカと。小物は焦げ茶で、チャコール半襟にや桃色チヨウチヨがある。今、10月なんやが…。

「オオタさ〜ん、やほー!!」

周囲の、おひいさま女優様方よか目立つ大村。

笑顔でメーワクにも大手振って…足下の配線にひっかってコケた…。―畳表のゲタがひょ〜んと宙舞って、落ちた。…コンコンコン、と。

「…大村、行き倒れか…?」

カツパがキンキラキンの扮装で伸びとるみてー…助け起こす気になれん希有な女性や。

大村ユ〜コ、本日持参の”原稿”はすつとばしたが、旧く日本航空マーク>?のアンティークバック??は手放さんかった…

「…はい、来週月曜の6時の予約…はい。宜しくお願いします」
むすつとした大村。

携帯置いて、中振袖のたもとをおさえて局内食堂のメニューを戻しとる。

「前歯のヒビつて、ア　ンアルファとかでくつつかないのかなー」
とかほざいとる。

おいっ!!格闘家でもそんな話は聞かへんぞ!!ホンマに女かおまえ…?…ハッ!!

「おい、ケータイ〜!!」

「へ?なに?…あーッ!!」

バツとケータイ取り上げて見た…履歴が気になる存在では無え。ギョツとしたんは「待受画面」や。

「いわゆる”萌え〜”の時代劇版、か?だが男のハズや…『蘭丸?』と表示がある以上…」

俺は…椅子からズリ落ちてわなわな…

大村、マツタク当然みてーな顔しとるが…お、オタクかこいつ…!?

「こ…こんなヤツと知つとつたら…俺は上役に斡旋しなかったのに…！」

「…？、だってオオタさん、ケータイ小説見てうちにメールしたんじゃない？」

フシギそーな大村ユウコ。上から…テツペンを見下ろすな〜！

「四国の”長宗我部元親”やる…？ヤツがガキンチヨの頃、弱つちくて”姫若子”と呼ばれたんは史実やから、それを書いとつたん違うのか」

「ーホントに読んだの！？オオタさん〜！？」

「…3分くらいか…」

ホンマは、古語はエエカゲンやし、渋いがべとつく文体で、げんなりして3分でほんなげた、が実情だ…

「ー”姫若子”と呼ばれて、色んな男に目を付けられるからー、（！？）強くならねばツ！！と、元親クン頑張るのヨ。”鬼若子”と言われる位。でもー、権力者・織田信長サマに狙われてーっ！！」

…はア！？

「”あんたの言うことあ聞けねえツ！！”と、信長サマを突っぱねて怒らせちゃうのヨー。信長サマつたら可愛いコに拒まれて悔しいから、息子の軍隊よこして、元親クン達を滅ぼそうとするのネ。ジエノサイド直前でさ〜大変ツ！！」

「…お、お前の頭ン中のが”大変”なんでねーか！？」

”元親の土佐が大変”な話が、どーやったらそう曲解できる！！

「でもっ…！！元親クン所に来てた、石谷頼辰にーさんのツテもあって、”明智光秀ちゃん”に助けてもらうのヨ…！！昔っからの仲良しじゃない？ほっとんどく一族〜と思っていいくらいでしょ。でもー、憧れのきれーなお兄さんが、利三クンとか一族そろって自分の為に命を落として。元親クン、シヨツクを…」

「だ、だ、誰が”きれーなおにーさん”じゃ〜ツ！？」

俺は…自分の職場の一角で絶叫してしもーた…！！

俺ら男側から見ると、明智光秀”ヤバくてさえないおっさん”程

度でしかねーぞ!? (イメージが…)

「ーかせッ!」

また、オームラのケータイ取り上げ…「光秀」の例の肖像画だしかけ…止めた。

あれも…”美形?” 疑惑の元凶のひとつや…

「あ、待受、ときどき変えんのヨ。ホラ」

取り返した持ち主・大村。へーぜんと画像ストック見せてくる。て少女マンガの絵じゃねえか!!

「こ、これのどこが”信長”〜?” 光秀”〜っ!? (秀吉はいねーのか!?)」

先ほどの『蘭丸?』(数えて享年18歳)と大差ねえ”萌え気味”な絵が…

50近く〜60代後半説の武士のおっさん連中やぞ…

「……………おめーは…<角栄>サンで…どんな小説書いとつたんだ…? (ゾーツ)」

「え? そりゃ…」口元に手を当てる大村。「フッフ…」と、地響きする笑い声を…

口を開こうとする大村に「イラン!」と、手で意思表示した。も〜これ以上、大村ワールドに汚染されとうない…

局内で、大村語録を拝聴するんは辛すぎる…近所の茶店に逃げこんだ。

「こないだのあれな…<徳川家光(仮)>。”大河”はムリやつて上層部からお達しあつたぞ」

「エーツどうして〜!? ヒトが折角〜!」

「どーしてっってお前…! <明智光秀(仮)>に変えちまうわ、ロボット大戦にしちまうわ、どーせいっちゅーんじゃ!」

「新機軸ヨ新機軸。話題になるよー! ジャパネスクな漢字入りメカ、海外に受けそーじゃん!」

「ロボット”征夷大將軍”だの”太閤”だの出すんか…? 漢字圏の

方々にゃサツパシ意味不明だろが！」

しかも、このJHKで……！！ドンパチ激しい<特撮番組>を撮らせる気かー！？

「ただ……とりあえず……<明智光秀（仮）>でええから……ドラマの“原案”は続けてくれ……」

「……？」

「ここ5年、禁煙しとったが、先刻コンビニで買ってしもうた。」

箱を開けかけ、ライター買い忘れた事に気づく。

大村、マブシイ（？）中振袖の上に座り、書類入れを抱えたままキョトンとしとる。

「一応、確認させてくれ。<明智光秀（仮）>な以上、“本能寺の変”は出すよナ？」

「そこが一番のクライマックスで、一番困るところじゃん。400年以上経った今でも光秀ちゃん、なんで信長サマ襲ったか解んない」

「理由付けによっちゃ、うちの局のコードに引っかけ……ん？」

「……寝てる所を……」

大村……カオガにやけてきやがった……こいつ気味悪イ……！全身の血が引いてきた。

「せ、世紀の美少年・蘭丸ちゃんとの仲を……だヨ……！」私はNO、2でしかないんですか……っ！？」って……！！

「さつきは”光秀は長宗我部元親をかばって”てゆーてたよなツ！？」

「あ……気のせい……！こっちがホント……！！」

「……の腐女子がツ……！おめーみてーのが日本のレアメタル回収率を下げるんじゃ……！（？）」

「……えーと……ケンゼンな一般常識人の意見やぞ、こっちは……！」

？光秀単独犯行説 / 権力欲 / 怨恨 / ストレス / 他

？黒幕存在説 / 足利幕府 / 朝廷 / イエズス会 / 他

？複数犯説

／＋家康／＋秀吉／他

？光秀又レギ又説　／秀吉／斎藤利三（光秀重臣）／家康／他
こん中に、あたるモンはあるか？（無かったらどうすべ！？）

口頭やが…よく言われる説ばつかだ。大村、腕組み眉間に皺寄せ
悩んでおる。

「あんのも、無いのもある…一応、”複数犯行説”？徳川家康クン
が組んでた、とするツモリ」
比較的フツツな意見でホツとした。（ま、最初の冊子の時点で、ん
な感じやったか）

”ありえねえ！！と言われる事も多い…” 織徳同盟”の義兄弟・
信長&家康の不仲…つーか確執。

しかし…妻と子殺しの”信康事件”を持ち出すまでもなく、徳川家
康、かくなり信長にヒデー目に遭わされとる。

”松平家”の父、祖父とも、織田家のインテリジェンスで、20代
の若さで殺されとる、とさえ言われとる。

家同士、長年”敵対者”だった義兄弟。

桶狭間で今川から救出しても、三方ヶ原なんぞ見てると…信長は、
この10歳近く下の弟を”いい下働き”とみてたかも…

「ーあと、おおざっぱに言ったら”足利幕府関与説”？將軍・義昭
はカンケーないけどネ」

…なんやそらっ！？

「室町將軍・足利義昭がムカンケーで、なして”幕府再興”がでけ
るんじゃ〜っ！？」

「後から、疎開中（？）の義昭について…あ、ケンカ中だっけ？そ
ーだ、自分が足利將軍になっちゃっうー！」

「光秀がー信長の後釜でなく”將軍”目指しておったと…？」

「光秀チャンはー、京奉行。足利幕府の外部窓口だヨ。世間によく
知られた高位の”顔”でも、將軍周辺の身分の高いメンバーではな
い」

ほう…全くの<妄想オンリー>て訳ではないんか、大村。

明智光秀の―”幕臣”としての書類等、色々と残っておるのに、なぜか世間に情報が広がらない。

朝倉士官説、斎藤道三関係者つー、”後世のつくり話”が…一般常識として社会に染み込んだるせいなんか…

大村、運ばれてきた茶漬け(なぜ?)を嬉しそーに眺めとる。

「信長サマのもとに来た幕府関係者のなかでもー、最上位の人間がいたじゃない!信長サマに追っ払われた將軍の”おにーさん”かもしれない男が!<幕府関与説>をいうなら、光秀チャンでなく、”こつちの男”のが主犯のハズだよ!!”

大村、ハシ割って、水のグラスの氷をドボドボ、茶漬けに投入し始めた…おいっ!?

「光秀チャン…可哀想。言い出しっぺのそのヒトがポーズ頭になった時、相当シヨックでしょ…親友で…娘も嫁いでたのに」

ぼ…坊主頭…

信長は、”(旧)幕臣”から光秀はじめ、ぎょうさんヘッドハントしたが、ポーズにバケた男はただひとり(+息子つき)。

「ほ…細川幽斎(=藤孝)か…!?なんでまた!?”

幽斎…つーか藤孝、光秀の手下…は言い過ぎでも”組下大名”…

信長を倒した後ー”部下”の藤孝(+筒井順慶)が”義憤?”で離反した事に、光秀がシヨックを……が”通説”やる??

「足利幕府じゃ、細川藤孝クンは局長クラス?エライ人だったから、逆に光秀チャンに命令してたカモ。…あと別件で、信長サマを恨んでたりネ。お茶漬け食べていい?前歯割れちゃったから、熱いのも冷たいのもコワくって」

しおらしい…のは気のせいか。

大村、勢いよく茶漬けをかきこんどる…”大正浪漫”な着姿に似合わず、えれー男らしい食事風景だ…。

一応、「ドラマじゃない」とだけ、上層部から聞かされとる<明

智光秀（仮）>。

しかしこんなんで…まとまるんか!?

今聞いてつてもー大村案<光秀謀反>の原因が、サツパシ見えんだ…!

? 長宗我部元親の救援⇨親友と一族の救済?

? 徳川家康との連携⇨長年の松平（徳川）家の怨恨?

? 細川藤孝（幽斎）の指示⇨足利幕府再興?

? 森蘭丸への…はパスツ!!

光秀ひとりでこんなに背負えるかーいッ!

やはしこれはみなで分担（蘭丸以外）の結果と…?

じゃ、ナゼ光秀だけが”犯人”として名が残った?他の連中はどーしたイ??

…それに、当時本当に”連帯”が存在したなら…

人間49年。何度も謀反を起こされた”時の権力者”織田信長は…側近にまで狙われるほど、周囲に疎まれる存在だったと?...うっむ。

「やっぱねー!”幕府のアイドル・光秀チャン”(やめい!!!)を信長サマに奪われて、藤孝クン、後追ってくるほど辛かったんだヨ。フッフ…」

細川藤孝はー弟?足利義昭とモメて引きこもり?の末、信長ン所に来たんやぞ。

ー大村ユ〜コ、これから別バージョンの”本能寺の変の真相”を語りそーや…

こ、これが世にいう”腐女子”の実態か…!?

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4870i/>

十兵衛さん。

2010年10月10日06時59分発行